

水掛不動

仁和寺が属する宗派、真言宗における中心的存在であり、五大明王のひとつでもある不動明王の小さな石像は、境内の奥にある質素なお堂に安置されています。不動明王は、信心深い者を守護し、親のような熱烈な愛を持って信者を導くと信じられています。仏教における悪魔やその他の敵に怒りを解き放てるように、右手には剣を、左手には縄を持っています。この神の慣習的なイメージ通りに、この像は炎の光背と頑丈な岩の台座を有していますが、これらは不動明王（不動は「動かない」を意味する）の決意を表していると言われています。水掛とは「水をかける」の意味で、水盤の脇に置かれた長い柄杓は、祈りを捧げる前に像に水をかけるために使われます。

伝説によると、この像は江戸時代（1603-1868 年）のある日、居合わせた人が氾濫した京都の川から助けを求める声を聞き、発見されたと言われています。水から出されたこの像は仁和寺に連れて行くよう求め、そこで泉の横の岩の上に安置されました。像の前の壺には、その泉と同じ水が入っています。